

コープこうべ
コミュニケーション
レポート

2023

2022年度報告



INDEX

各地区の取り組み	2
ターゲット2030	4
ターゲット2030 × SDGs	5
つながり	6
健康	10
環境	14
あんしん	18
中期経営計画	22



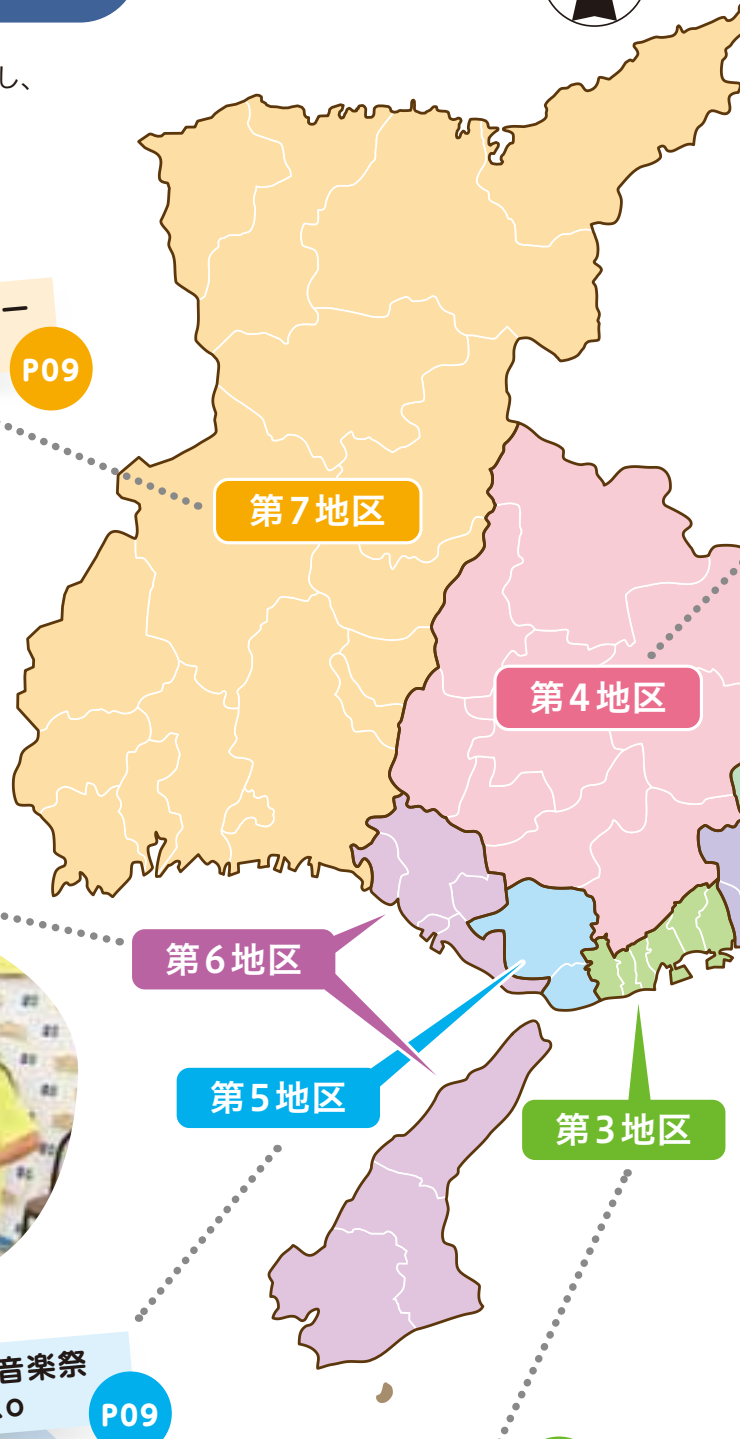
コミュニケーションレポートとは

組合員や地域の皆さまとのコミュニケーションが深まることを願い、作成したレポートです。コープこうべの取り組みを「ターゲット2030」とSDGs(持続可能な開発目標)を基調に編集しています。

各地区の取り組み



将来にわたり誰もが安心して暮らせる地域社会をめざし、「つながる力、たすけあう心」を大切に地域やくらしの課題に向き合っています。2022年度の主な取り組みを紹介します。



シニアファッションショー
「あ・い・こ・レ2023」 P09



つながり企画
「昭和DAY」 P06



うみかぜ音楽祭
in Maiko P09



学んで実践!
防災学習会 P19



つながろう
フェスタ

P06

それぞれの地区で
いろんな取り組みを
しているよ!



大阪北地区

みんなの牧♥里
プロジェクト

P15

地区別 活動エリア

コープこうべでは、活動エリアを8つに区分し、
エリアごとに地区本部を設置しています。
各地区本部では、地域のニーズを
よりきめ細かく把握して活動・事業を推進し、
行政や地域団体との連携・協力を強めています。

大阪北地区	大阪市(西淀川区、東淀川区、淀川区)、 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、 茨木市、箕面市、摂津市、島本町、 豊能町、能勢町
第1地区	尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、 猪名川町
第2地区	西宮市、芦屋市
第3地区	神戸市(東灘区、灘区、兵庫区、長田区、 須磨区、中央区)
第4地区	神戸市(北区)、西脇市、三木市、 小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、 丹波市、加東市、多可町
第5地区	神戸市(垂水区、西区)
第6地区	明石市、洲本市、加古川市、高砂市、 南あわじ市、淡路市、稲美町、播磨町
第7地区	姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、 養父市、朝来市、宍粟市、たつの市、 市川町、福崎町、神河町、太子町、 上郡町、佐用町、香美町、新温泉町、 京都府京丹後市

活動エリアのならばは、全国地方公共団体コード(総務省)順

第1地区

第2地区



まちのつどいば
「ココおる」

P08



つどい場づくり
プロジェクト(甲東園)

P07

ターゲット2030

コープのあるまち 協同のある暮らし

ターゲット2030

2030年、私たちが暮らす地域はどうあってほしいか。その中で、どんな暮らしをしていきたいか。そんなことに一人ひとりが思いをはせ、2030年のありたい姿やその実現に向けて、私たちに何ができるかを示すビジョン。2018年から職員・組合員・地域と一緒に策定をすすめて、100周年を迎えた2021年に宣言。

4つのテーマ

人と人がやさしさで つながり、助け合える

P06~
P09

私たちは、人と人とのつながりを大切に、さまざまな資源をつなぎあわせることで、笑顔あふれるコミュニティづくりの一翼を担います。

- ① 助け合える「仕組み」や「機会」を地域社会と共につくる
- ② さまざまな資源をつなぐ
- ③ 暮らしのインフラとしての役割を担う

健康でいきいきとした 毎日を送れる

P10~
P13

私たちは、食と暮らしの情報を正しく学び、分かりやすく伝えることで、誰もがいきいきと自分らしく暮らせる場づくりを行い、より良い暮らしの選択肢を広げます。

- ① 笑顔あふれる食卓づくりを提案する
- ② 情報があふれる今だからこそ正直・誠実に分かりやすいカタチで伝える
- ③ 誰もが利用しやすい「場」づくりをすすめる

自然環境と 共に生きる

P14~
P17

私たちは、より良い利用と行動で、豊かな自然を未来につないでいきます。

- ① より良い消費行動・運動につなげる「消費のスタイリスト」をめざす
- ② 地域の資源を循環させるコーディネーターとなる
- ③ 防災力NO.1の地域づくりを推進する

みんなが笑顔で、 安心できる

P18~
P21

私たちは、一人ひとりの声や暮らしから生まれた想いや願いを実現し、平和でより良い暮らしを追求します。

- ① 安心して子育てができるよう世代を超えてつながる場づくりを実現する
- ② 誰もが働きやすい社会づくりを推進する
- ③ 世界平和を願う運動体としてすすむ



あした
やさしさつむいで 笑顔で未来へ



ターゲット2030
100周年記念ソング

ターゲット 2030 × SDGs



「生協の父」とも呼ばれる賀川豊彦の指導のもと、
コープこうべの前身となる2つの購買組合
（「神戸購買組合」「灘購買組合」）が誕生したのは
およそ100年前のこと。「愛と協同」の精神を
原点に、組合員が心と力を寄せ合い、くらしの
安心をつむいできました。



私たちは、創立100周年の2021年に次の100年を
見据えた2030年ビジョン「ターゲット2030」を策定しました。
「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げる
SDGsの考え方に共鳴しつつ、2030年のありたい社会の
実現に向け、取り組みをすすめます。

SDGs (持続可能な開発目標)とは…

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月に発効されました。



ターゲット2030 4つのテーマ	2030年のありたいまち、くらし ／みんなが(で)できること	対応する主なSDGs	共通する SDGs
	人と人がやさしさで つながり、助け合える	貧困 1 貧困をなくそう 産業・技術 9 産業と技術革新の基盤をつくろう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	パートナーシップ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
	健康でいきいきとした 毎日を送れる	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
	自然環境と 共に生きる	水とトイレ 6 安全な水とトイレを世界中に エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさも守ろう	
	みんなが笑顔で、 安心できる	教育 4 質の高い教育をみんなに 性平等 5 ジェンダー平等を実現しよう 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	

つながり

1 貧困 貧困をなくそう	9 産業・技術 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 まちづくり 住み続けられるまちづくりを	12 生産・消費 つくる責任 つかう責任	17 パートナースhip パートナーシップで目標を達成しよう
				

人と人がやさしさでつながり、助け合える「まち、暮らし」

- ①助け合える「仕組み」や「機会」を地域社会と共につくる
- ②さまざまな資源をつなぐ
- ③暮らしのインフラとしての役割を担う

地域との対話の出発点 「地域つながるミーティング」を すすめています



地域でできることについての話し合い(コープ箕面中央)

2022年2月からスタートした「地域つながるミーティング」は、総代や地域コープ委員会、サークル活動を行う組合員だけでなく、行政や社会福祉協議会、NPOなどの団体、地域で活動する個人やグループが参加し、対話を通じて人や組織がつながる場です。

そしてこの場で出会った人や組織が地域の課題について話し合い、各々の特徴や強みを生かし、課題解決につなげています。2022年度は、のべ3000人を超える皆さんがより良い地域づくりをめざし、話し合いを重ねました。



地域連携の取り組みが広がっています

丹波篠山市社会福祉協議会との買い物困難者等への支援協定を受け、地域の団体や企業、学校、地域コープ委員会が連携し、SDGsをテーマに「つながろうフェスタ」を開催。800人を超える方が来場され、持続可能な社会のあり方や地域のつながりの大切さを感じました。



フェスタの受付を担当する地域コープ委員会の皆さん

コープ大久保では「地域つながるミーティング」での対話をきっかけに、地域の活動者や民生委員・児童委員、社会福祉協議会、組合員などが集まり、「レトロ」をキーワードにしたイベント「昭和DAY」を開催。のべ400人以上の方が来場され、世代を超えてつながりました。



イベント開催のあいさつのような様子

誰もが先生、誰もが生徒 地域とつくる学びの場が始まりました

協同購入センター姫路の福崎町移設に伴い、福崎町社会福祉協議会と連携し、地域に開かれたつどい場「まちの学校」がスタートしました。

ここでは、「誰もが先生、誰もが生徒」をコンセプトに、地域の人誰でも「教室」を開講・受講できます。楽器演奏、ヨガなどの運動、英会話、高校生によるコーヒーの焙煎、地元出身のアナウンサーによる話し方教室など、現在30講座に約300人が登録しています。子ども食堂も始まりました。



「まちの学校」の開設を横断幕でお知らせ

ワカモノ応援サイトを通じて 学生の活動を応援しています

ワカモノ応援サイト「Konoyubi.(コノユビ)」では、地域での学習支援や清掃活動などのボランティア、学生が企画した活動への参加を呼びかけています。各地区とつながりのある学生たちがサイトを通して組合員活動や地域の活動に参加する機会が増えていきます。



高校生がスマホの使い方をアドバイス

世代を超えてつながる 出会いの場をめざします

コープ甲東園(西宮市)のリニューアルオープン後、地域の方々が新たに出会い、交流できるつどい場づくりに向けて1年間、協議を行いました。大学生や地域の活動者、子育て中の方のグループなど14の団体がそれぞれの思いを伝え、これまで交流がなかった団体同士がつながるイベントも実施し、2023年4月につどい場をオープン。名称は「CO=コープ、コミュニティ(地域)」「KO=甲東園」の意味を込め、「コープのつどい場『CO・KO(ここ)』」に決まりました。



「CO・KO(ここ)」、オープン当日の様子

「たすけタッチ」による つながりが広がっています

ちょっとした助けが欲しい人と助けたい人をスマホのアプリでつなぐ取り組み「たすけタッチ」。これまでにのべ約1260回、ゴミ出しなどを住民同士で助け合ってきました。神戸市垂水区乙木小学校区ですすめてきたこの取り組みは、東灘区や西区でも運用を始めています。

つながりづくりをすすめ、いざというときにもお互いを思いやり、声を掛け合う地域づくりをめざしていきます。



「たすけタッチ」を通じてゴミ出しをお手伝い

高校生たちが特技を生かして地域に貢献しています

コープ神吉で兵庫県立東播工業高校(加古川市)の生徒が教える「スマホ教室」と「子ども工作教室」を開催しました。「スマホ教室」は行列ができるほどの人気ぶりで「学生が優しく教えてくれるのでうれしい」と好評でした。

「子ども工作教室」には4歳児から小学生までが参加。電気科の学生たちと一緒にオルゴールボックスを作りました。「作るのは簡単だけど、教えるとなると難しい」と講師役の高校生にとっても良い経験となりました。



オルゴールボックスと一緒に作る小学生と高校生

高校生たちと地域の課題を学んでいます

兵庫県立伊川谷高校(神戸市西区)と「教育提携に関する協定」を締結しました。高等教育の活性化と高校生の学習機会の拡充を図るとともに、地域の活性化を推進し、地域に貢献することをめざします。

地区本部や店舗の職員が参加し、SDGsや地域連携などの課題について高校生たちと学び合いました。



地域課題について高校生にアドバイスする職員

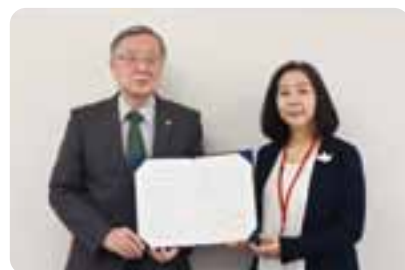
行政や諸団体との連携をすすめました

地区本部が中心となり、行政や地域の諸団体と連携した地域づくりや課題解決の取り組みを行っています。

2022年度は高砂市や播磨町、各地の社会福祉協議会(豊岡市・西宮市・神戸市)とも協定を結びました。



播磨町と協定締結



西宮市社会福祉協議会と協定締結

交流や情報発信の場を地域に増やしています

宝塚市に、子育て世代からシニア世代まで、地域の方が誰でも立ち寄れる「まちのつどいば『ここおる』」がオープンしました。赤ちゃん連れの方が安心してくつろげるスペースも備えています。

地域とつながるさまざまなイベントの会場や「地域めーむひろば」の拠点としても利用され、宅配商品の受け渡しなどをきっかけに新たな対話も生まれています。



新しくオープンした「ここおる」で宅配商品の受け渡しを開始

高齢者の買い物と障がい者の社会参加を応援しています

豊岡市社会福祉協議会と「買物困難者等への支援に関する協定」を締結し、豊岡市内の福祉事業所に通う利用者らが、地域の高齢者にコープこうべの宅配商品を届けるサービスがスタートしました。障がい者の社会参加を応援するとともに高齢者の買い物を支援。また、見守りサービスにより安心を届けています。



豊岡市社会福祉協議会と協働でサービスを開始

音楽を通して人のつながりを感じました

「第41回全国豊かな海づくり大会」の協賛イベントとして、兵庫県立舞子公園特設会場で「うみかぜ音楽祭 in Maiko」を開催しました。テーマは「海」。約3000人が来場し、大小2つのステージでは20組がパフォーマンスを披露しました。ステージ以外にも、お魚のタッチプール、座ったままできるヨガ、セラピードッグとの触れ合い、手作り品のバザーなど21のブースが出展し、多くの人にぎわいました。



海をバックに日頃の活動を披露

多世代が交流し地域を元気にしています

相生市では、地域団体や地元の兵庫県立相生産業高校(相生市)の生徒と一緒に、まちの活性化を図る話し合いを重ねています。2023年2月には学生からシニアまで多世代が交流するファッションショーを開催。地域に元気を届けました。



ファッションショー「あ・い・こ・レ2023」に参加したモデルの皆さん(コープデイズ相生)

宅配や店舗で学び合いや交流の機会を増やしています

協同購入センターや店舗で、「おしごと体験」してもらったり、商品を伝える「レインボーひろば」「レインボースクール」を開催し、コープの魅力を伝えています。

地域の団体との合同開催も増えており、職員と組合員の交流や組合員の学び合いの場が広がっています。



宅配と店舗の職員が合同で行った「レインボーひろば」(コープデイズ神戸西)

健康

飢餓	健康と福祉	まちづくり	生産・消費	パートナーシップ
2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナーシップで目標を達成しよう

健康でいきいきとした毎日を送れる「まち、暮らし」

- ①笑顔あふれる食卓づくりを提案する
- ②情報があふれる今だからこそ正直・誠実に分かりやすいカタチで伝える
- ③誰もが利用しやすい「場」づくりをすすめる



健康づくりを啓発するポスター

信頼され続ける 組織づくりには、 職員の健康が大切です



7月、コープこうべは組合員や地域社会に信頼され続けるために、すべての職員が心身共に健康であることが大切と考え、健康保持・増進の取り組みをすすめていくよう「健康経営宣言」を策定しました。

2023年3月、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」に認定されました。



「フレイル※予防」の食生活に 取り組んでいます

第1地区では兵庫県栄養士会の栄養ケア・ステーションと協力し、「フレイル予防学習会」を地区内の店舗で開催しています。店舗にある商品のタンパク質量を記載した一覧表を用いて、組み合わせて食べる食材やメニューを提案。店舗の商品案内には、高タンパク商品が一目でわかるような工夫も施し、学んだことを実践できるように取り組んでいます。

※加齢により心身が衰えてきている状態



フレイルを予防する食生活についての学習会(コープ宝塚)

オンラインを活用した体操で 健康習慣づくりをすすめています

一般社団法人しんしんスポーツ・KOBEと連携し、オンラインを活用した体操を月2回、10店舗以上で開催しています。椅子に座ったままできる手軽な体操で、のべ1000人以上が参加し、健康習慣づくりをすすめています。

第5地区の店舗から始まった体操は、地域福祉センターでも実施されるなど、地域にも広がりつつあります。



椅子に座ったまま行う「しんしん体操」(コープ福田)

小学生のマラソン大会を開催しました

2023年2月、神戸総合運動公園ユニバー記念競技場(神戸市須磨区)で「第32回コープこうべ・S&B杯ちびっ子健康マラソン大会」を3年ぶりに開催。約600人の小学生が参加しました。

暖かい日差しの中、学年・男女別に準備体操をした後、沿道からの熱い応援を受け、力強く走る姿が見られました。参加した小学生は「疲れたけど楽しかった。来年もまた参加したい」と笑顔で話していました。



スタートの号砲で元気に駆け出す4年生

ラジオで健康づくりや食品衛生の情報を伝えています

ラジオ関西の番組内でコープこうべの職員や組合員が商品やイベントなどの情報をお知らせするコーナー「コープ・スコープ!」。毎月第3・第4火曜日は、食習慣の見直しや食中毒予防など、健康についてのお話や商品検査センターの取り組みをお知らせしています。

※番組コーナーの内容はラジオ関西のテキスト記事「ラジトピ」で配信しています。→



「コープ・スコープ!」を収録するスタジオ(ラジオ関西)

正しい手洗いの方法を伝えています

健康管理や食品衛生の基本となる手洗いの大切さを商品検査センターの見学会や食品衛生の学習会で伝えています。

感染症対策を行う上で手洗いはとても重要です。見た目では汚れていなくても、細菌やウイルスなどが付着している可能性があります。手順や洗い方を見直し正しい手洗いを行うことで、洗い残しが少なく、より清潔になることを実習も交えて学んでいます。



商品検査センターの見学会で手洗いの実習

感染症拡大の防止に努めています

2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大による不安が続きましたが、行動制限はなく社会経済活動は徐々に戻り、「ウイズコロナ時代」が始まりました。

2023年3月13日以降のマスク着用は個人の判断に任せるという政府からの方針が示されましたが、安心して買い物をしていただくために職員は引き続き、マスクを着用し業務を行っています。



マスク着用で勤務する職員(コープ甲東園)

はかるたいせつ PROJECT

「健康でいきいきとした毎日」はみんなの想い
『はかるたいせつプロジェクト』に取り組んでいます

「はかるたいせつプロジェクト」は、商品検査センター開設50周年の2017年度から、商品はもちろん、一人ひとりの食習慣やより良い体づくりのために「はかる(計る、測る、量る)」ことを大切に考えた健康づくりの取り組みです。

私たちは毎日、食べ物や飲み物から必要な栄養をとって暮らしています。どんな栄養が不足しているのか、とり過ぎているのかを知ることは、「健康でいきいきと

した毎日」を送るための第一歩です。また、適度な運動・十分な睡眠も大切な要素です。

食習慣調査や店舗で健康測定会などを実施し、一人ひとりの食習慣や体の状態を「はかる(計る、測る、量る)」ことで健康づくりを広める活動に取り組んでいます。



はかるたいせつプロジェクト 検索



小学生の食習慣調査を行い、食生活の大切さを伝える学習会
(第1地区本部)



ホームページでさまざまな取り組みを紹介

店舗で健康測定会を行っています

店舗の共済相談コーナーでは、「健康」について関心を持ってもらえるよう、動体視力、俊敏性、骨の健康度、血管年齢などをはかる測定会を行っています。また、健康状態やライフステージに合わせた保障を提案し、見直しにつなげています。

のべ57店舗で7006人が参加しました。



店舗で動体視力を測定

インターネットを活用した食習慣調査を行いました

とり過ぎ、または不足しがちな栄養素を知るきっかけづくりの取り組みとして、東京大学の佐々木敏先生が考案された食習慣調査票(BDHQ)を活用した学習会を2017年から実施しています。

2022年度はインターネットを活用した調査(4回目)を行い、1789人に回答をいただきました。12の栄養素のうち「食塩」は、ほとんどのの方が「とり過ぎ」という傾向が見られ、「食物繊維」は「少ない」「やや少ない」の方が全体の82%でした。

詳しくは『Hakaru(はかる)』8号をご覧ください。



食習慣調査にスマートフォンで手軽に参加

「ひょうごまるごと健康チャレンジ2022」を開催しました

2018年から兵庫県生活協同組合連合会、兵庫県の8つの医療生協と共に「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を実施しています。「食事」「運動」「睡眠(リフレッシュ)」「生活習慣」の4コース・20メニューからテーマを選び、楽しみながら健康な生活習慣を身に付ける取り組みです。

2022年度は、4951人が参加しました。



「健康チャレンジ運動コース」の取り組みとして「フレイル予防体操」を実施

「第6回商品検査の日のつどい」を開催しました

1967年、全国の生協に先駆けて商品検査室を開設しました。開設50周年の2017年から開設日の10月1日を「商品検査の日」とし、毎年この日に「商品検査の日のつどい」を開催し、食の安全について考えています。

2022年度は消費生活コンサルタントの森田満樹さんを講師に迎え「食品表示と食のリスクコミュニケーション」をテーマにオンラインで実施。食品パッケージは“裏面”の確認が大切であることや、2022年4月から全ての加工食品に対し原料原産地表示が義務付けられたことなどについて学びました。



「第6回商品検査の日のつどい」の様子

商品検査センターの取り組み

商品検査センターでは、商品の品質チェック、コープこうべ内の食品衛生管理、商品についての科学的知識の普及、組合員からの商品お申し出に対する助言や提言などを行うため、検査、調査、広報に取り組んでいます。

2022年度は「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の定着」「食品衛生に関する知識のアップデート」「健康づくり、食の安全の情報発信」を推進しました。

コープこうべ商品検査センター

検索



2022年度実績

検査分野	検査項目	検査件数
微生物	一般生菌数、大腸菌(群)、黄色ブドウ球菌など	4153
残留農薬	一斉分析約440農薬	219
動物用医薬品	抗生物質、合成抗菌剤	31
食品添加物	保存料、着色料、発色剤、漂白剤など	24
品質管理項目	ヒスタミン、油脂の酸価、過酸化物質価など	20
重金属	米のカドミウム	37
放射性物質	セシウム134、セシウム137	74
異臭	お申し出品の石油臭、薬品臭などの原因物質	34
異物	お申し出品のプラスチック、金属、鉱物など	1122
	合計	5714

イベント名	開催件数 参加人数
見学及び学習会	23件 282人

調査など	内容	件数
商品お申し出調査	商品検査センターで受け付けたお申し出品の調査・回答書作成数	3162
栄養成分表示作成	コープス(コープこうべのPB商品)の栄養成分表示作成数	46



環境

水とトイレ 6 安全な水とトイレを世界中に	エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	気候変動 13 気候変動に具体的な対策を	海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう	陸の豊かさ 15 陸の豊かさも守ろう	パートナーシップ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
--------------------------	-------------------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------------

自然環境と共に生きる「まち、暮らし」

- ①より良い消費行動・運動につなげる「消費のスタイリスト」をめざす
- ②地域の資源を循環させるコーディネーターとなる
- ③防災力NO.1の地域づくりを推進する

組合員発の取り組みが全国に広まりました

「てまえどり」が「現代用語の基礎知識 選 2022ユーキャン新語・流行語大賞」トップ10に選ばれました。発表・表彰式には、全国に先がけて取り組んできたコープこうべと神戸市の代表者のほか、コンビニエンスストアで「てまえどり」を呼びかけた一般社団法人日本フランチサイズチェーン協会や農林水産省も参加しました。



12月1日、流行語大賞の発表・表彰式の様子

コープこうべでは2018年、神戸市と連携して「てまえどり」キャンペーンをスタート。これ以降、食品ロスの削減を目的に、すぐ食べる場合は、商品棚の手前にある値引き商品や販売期限の迫った商品を購入するよう、啓発ポスターなどで呼び掛けています。

もともと、第1地区の組合員による活動「e買うプロジェクト」では、2016年から食品ロスを減らす学びや実践活動の中で上記のような取り組みを実施してきました。

将来にわたり安心して暮らせる社会をめざす、組合員発の取り組みが高く評価されました。



第1地区「e買うプロジェクト」の皆さん

家庭の余剰食品を持ち寄り有効利用につなげています

フードドライブは家庭で使い切れない余剰食品を、宅配や店舗にて無償で引き取り、フードバンクや子ども食堂などを通じて食の支援を必要とする方に提供する取り組みです。コープミニを除く全ての店舗（コープミニルミナス箕面では実施）で常時、受付を行っています。9月と1月には、全ての協同購入センターと店舗で集中受付キャンペーンを実施。年間で約44トンの食品が組合員の皆さんから寄せられ、必要とする方たちの支援につながりました。



フードドライブを呼びかける大学生

プラスチックカトラリーの使用を中止しました

「プラスチック資源循環促進法」の施行に伴い、2022年4月から全ての店舗でプラスチック製のスプーンやストローの提供を中止しました。

レジやサービスコーナーにお申し出いただいた場合のみ、木製または紙製のスプーン、紙製のストローを無料で提供しています。今後もプラスチック削減の取り組みを推進していきます。



木製スプーンと紙製ストロー

地域や生産者、取引先の課題をみんなで考え、商品化しました

規格外原材料の有効利用や、地域の取引先の活性化など、地域の課題解決をめざし、コープこうべと生産者、取引先が共同で開発する「CO・OP NEXT100商品」。フードプランとり肉の未利用部分を使用した鶏だんご「いろいろ使えるとりまるちゃん」、兵庫県神河町産のゆず果汁を使用した「ベイクドチーズケーキ」が宅配カタログ『めーむ』でデビューしました。



いろいろな料理に使える「とりまるちゃん」

地域の環境団体に寄付しました

リニューアルオープンした店舗を中心に「寄付機能付きペットボトル減容回収機」を導入しています。回収機にペットボトルを投入すると「1本につき1円」を寄付として集計し、年1回、地域で環境活動に取り組む団体に寄付しています。

2022年度は西宮市内の3店舗で集まった寄付金(13万8318円)を武庫川の自然環境の保全や治水対策に取り組む「21世紀の武庫川を考える会」に寄付しました。



寄付機能付きペットボトル減容回収機(コープ西宮南)

「プラエコデー」を開催しました

第7地区では、使い捨てプラスチックの使用量を削減するための取り組み「プラエコデー」を各地で開催しています。コープ龍野やコープデイズ豊岡では、エビやホタテ、鮭などの商品をバラ売りで提供し、自宅から持参した容器に入れていただく企画を開催。食品トレーやフィルムなどのプラスチック削減につながりました。今後もこのような環境に配慮した取り組みを広めていきます。



持参した容器に商品を入れる組合員(コープ龍野)

大切な自然環境を次世代につないでいきます

2015年からスタートした大阪北地区「みんなの牧♥里プロジェクト」では、地元農家や組合員と定期的に農業ボランティアや竹林整備、子ども農園などの活動を実施しています。2022年度は新たに、土づくりから農業をより本格的に学ぶ「畑の学校」を開校しました。また、牧里の取り組みに関心を持つ学生たちとの交流も行い、のべ1900人が参加。地元の方と一緒に大切な環境を次世代につないでいくよう、牧地区の里山保全活動を続けています。



「みんなの牧♥里プロジェクト」の活動の様子

コープこうべ有機農業教室を 開催しました

エコファームでは、2021年度から農業や化学肥料を使用せず、人と自然にやさしい野菜づくりを学ぶ「有機農業教室」を開講しています。

2年目となる2022年度は、神戸大学名誉教授の保田茂先生と兵庫県立農林水産技術総合センターの西村いつき先生を講師に迎え、野菜の栽培から保存方法まで体験する全10回のプログラムに、43人が受講しました。2023年度も48人の受講生を対象に開講します。



うねづくり・除草作業の実習のようす

豊かな海の再生に 取り組みました

湊里水利組合(南あわじ市)主催の「かいぼり」に組合員と職員が参加しました。農業者と漁業者、協同組合などが協力し、豊かな海づくり、持続可能な農業をめざしています。池の底の泥をかき出すことでため池を健全に保ち、栄養が川や海に流れ、生物を育むことにつながります。

これからも地元の食材や地域の豊かさを、協同の力で守っていけるよう取り組んでいきます。



湊里の西ノ池で泥をかき出すボランティアの皆さん

鳴尾浜・玉津リサイクルセンターの 見学会をオンラインで開催しました

西宮市鳴尾浜と神戸市西区玉津町にある2つのリサイクルセンターをオンラインでつなぎ、見学会を開催しました。当日は62人の組合員親子が参加。「オンラインなので、1度に2つのリサイクルセンターが見学できて良かった」「今日からできるリサイクルの取り組みについての理解が深まった」などの感想が寄せられました。また、夏休みの自由研究にも活用されました。



オンライン学習会のようす(玉津リサイクルセンター)

SDGsと環境をテーマに 学習をすすめています

「SDGsってなに?」「なぜ今SDGsに取り組むの?」SDGsとコープこうべの事業活動の関係を学ぶ出前講座を開催しています。2022年度は学校や地域団体の方々を対象に合計35回開催し、のべ1151人が参加しました。

生協をはじめ協同組合が大切にする「一人は万人のために、万人は一人のために」という理念はSDGsのめざす「誰一人取り残さない」という世界観と相通じます。これからも持続可能な社会の実現に向け、学習の輪を広げていきます。



SDGsや環境の取り組みについての学習会

太陽光発電と自家発電・自家消費の取り組みをすすめています

2013年7月に策定した「コープこうべのエネルギー政策」の基本方針に沿って、持続可能なエネルギー社会の実現に向けた取り組みをすすめています。

活動エリア内には、再生可能エネルギー普及のために44カ所の太陽光発電所が稼働しています。2023年1月に新設した協同購入センター東神戸では、屋根に設置した太陽光パネルで発電された電気を事業所内で使用する自家発電・自家消費に取り組んでいます。



協同購入センター東神戸の屋上の太陽光パネル

コープこうべ環境基金による助成を通じ、兵庫県内の環境保全をすすめています

2022年度は、生物多様性の保全や希少種・在来種の復元、再生可能エネルギー普及などの活動を行う31団体に対して、総額715万円を助成しました。

11月には、「コープこうべ環境基金オンライン市民団体交流会」を開催。助成先団体の事例発表会では活動されている現場からの中継もあり、臨場感のある発表となりました。



助成先団体「丹波地域のホトケドジョウを守る会」個体数調査の様子

環境チャレンジ目標

エコチャレ 2030



目標年度：2030年度

2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

チャレンジ1 事業活動におけるCO₂排出量を半減!

重点施策

- 設備更新／車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんきへの切替

2050年度には、排出量実質ゼロをめざす!



チャレンジ2 事業活動における食品廃棄物を半減!

重点施策

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンクなどへの食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上



チャレンジ3 事業活動におけるプラスチック使用量を25%削減!

重点施策

- プラスチック製容器包装の削減
- 再生プラやバイオプラなど代替素材への切り替え推進
- プラ削減につながる商品・サービスの開発・供給促進



チャレンジ4 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進!

重点施策

- 環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進



チャレンジ5 組合員とともにエシカル消費を拡大!

重点施策

- エシカルな商品、エシカルなくらしのあり方に関する学習・広報の推進
- 組合員とともにエシカル消費を拡大



あんしん

教育 4 質の高い教育を みんなに 	性平等 5 ジェンダー平等を 実現しよう 	成長・雇用 8 働きがいも 経済成長も 	人権・平等 10 人や国の不平等 をなくそう 	平和 16 平和と公正を すべての人に 	パートナーシップ 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
-----------------------------	--------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	--

みんなが笑顔で、安心できる「まち、暮らし」

- ① 安心して子育てができるよう世代を超えてつながる場づくりを実現する
- ② 誰もが働きやすい社会づくりを推進する
- ③ 世界平和を願う運動体として進む



ウクライナ緊急募金を呼びかける県立三木北高校の皆さん
(コープ三木緑が丘)

たくさんの善意をお寄せいただきました

2022年度も宅配や店舗でさまざまな募金活動に取り組みました。たくさんの組合員の皆様のご協力により、総額1億5000万円を超える善意が寄せられました。

それぞれの用途に沿って、組合員のボランティア活動や平和活動への助成、高校生への奨学金、兵庫県ユニセフ協会やハート基金への寄付、地域団体へのお米の寄贈を通じたくらしの支援などに役立てています。また、ウクライナの紛争とトルコ・シリア地震の発生を受けて緊急募金を行い、現地の方の支援に役立てています。

これからも誰もが安心して笑顔で暮らしていけるよう、力を寄せ合っくらしの課題に取り組んでいきます。

居住支援に協力しています

第1地区では、コープこうべと尼崎市、コープこうべとつながりのある支援団体で協定を結び、「あまがさき住環境支援事業REHUL(リーフル)」が始まりました。尼崎市の市営住宅の空室をさまざまな支援団体の活動の場として活用する取り組みです。趣旨に賛同する支援団体には市営住宅の使用が認められ、シングルマザーや留学生などの住居、活動のための事務所などとして使用されています。3月末現在、ネットワーク団体は16団体に広がっています。



空き部屋の片付けをして活用

地域ぐるみで子育てを応援します

神戸市社会福祉協議会(以下、社協)と「こどもの居場所づくり推進協定」を締結しました。近年、子ども食堂などの居場所が増え、市民や企業から社協に届く支援物資も増加。それらの物資を受け入れ、支援団体に提供する拠点として、神戸市内にある宅配や店舗の施設を活用していきます。今後も社協・支援団体との交流を深め、地域で子どもたちを見守る力を強めていきます。



3月3日に行われた協定締結式

コープのお買い物ができる地域の拠点を広げています

兵庫六甲農業協同組合（JA兵庫六甲）と包括連携協定を締結しました。この協定により、コミュニティの維持・発展、生産者と消費者をつなぐ活動などにおいて、さらに連携を深めます。取り組みの一つとして西宮山口JAセンターで「地域めーむひろば」を開始しました。注文した宅配商品をJAで受け取れるサービスです。



JA兵庫六甲の支店で行われている「地域めーむひろば」

また、加東市や小野市、宍粟市などの神戸新聞販売店とも連携し、「地域めーむひろば」を広げています。毎週の商品の受け渡しを通じて交流が生まれ、つながりの場となることをめざしています。

コープこうべの店舗がないエリアでも地域とのつながりを大切にしながら、コープのお買い物を楽しんでもらえるよう地域の団体と連携を強めています。



「地域めーむひろば」を実施している神戸新聞販売店

日々の暮らしの中でできる 災害対策を学びました

第3地区では、新設の協同購入センター東神戸で施設見学も兼ね、防災、減災について親子で学ぶイベントを実施しました。

災害が起きたときに実践できるよう、身近にある牛乳パックやペットボトルを利用し、防災グッズづくりや活用方法を紹介するなど、お子さんにも分かりやすく、楽しく学びました。地域の防災拠点としてのあり方を考える機会にもなりました。



協同購入センター東神戸の構内で行われた消火訓練

「もしも」に備えて 取り組んでいます

10月、内閣府などが主催する「第7回防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」がHAT神戸（神戸市中央区）などで開催されました。2日間でのべ約320団体が出展。災害の知識や経験を共有しました。コープこうべは（公財）味の素ファンデーション、食べる支援プロジェクトと共催で「いざという時どうする？あなたの食と栄養」と題したワークショップを実施。コープこうべがすすめる「BOSAIキッチン」の取り組みを神戸学院大学栄養学部・伊藤智教授、兵庫県立芦屋高校（芦屋市）、兵庫県立西宮今津高校（西宮市）の生徒と共に発信しました。



災害時に役立つ調理や備蓄の大切さを伝えるワークショップ

行政が行う子育て支援の取り組みに協力しています

加西市の子育て見守り支援事業「かさいすくすく子育て定期便」の宅配業務を受託しました。0歳児がいるご家庭を対象に、生後3カ月目から満1歳の誕生日まで月1回、紙おむつやミルクなど、希望する育児用品2点を無料でお届けするとともに、赤ちゃんと保護者の見守りを行っています。

また、池田市の子育て支援の取り組みに賛同し、出産祝品の提供を始めました。出生届を提出された際、市役所の職員が窓口で祝品としてガーゼハンカチ、フリーザーバッグ、おしりふき2パック、サーモボトルを渡しています。



親子の見守りを兼ねて育児用品をお届け



池田市と協同で取り組みを発表



イクハク ベスト育児制度賞をいただきました

2021年度に高校生向けの奨学金制度を開始。行政、学校、地域の団体との連携がスムーズに行えるよう、2022年6月に「一般財団法人コープこうべ奨学金財団」を設立し、奨学金事業の運営を移管しました。奨学金の愛称は組合員から募集し「てとて」に決定。

9月には育児世代向けのWebサイトを運営する一般社団法人日本子育て制度機構から、「2021年度イクハク ベスト育児制度賞」を受賞しました。これからも次世代を担う若者の学びや活動、夢の実現を応援していきます。

コープこうべの奨学金



イクハク ベスト育児制度賞受賞式の様子

「買いもん行こカー」を広げています

「買いもん行こカー」は、6月にコープ朝霧、8月にコープ播磨、10月にコープ加西、11月にコープ山本、コープ宝塚、コープ志染で運行を開始しました。

2023年3月末時点で35店舗31台が運行しており、3536人が登録しています。



コープ宝塚で「買いもん行こカー」の運行を開始

「平和」を「未来」につなぐため、若い世代と「平和」について学んでいます

2023年3月、広島市内の遺構を自転車で巡る旅に、尼崎市の高校生6人が参加。原爆3世のガイドの方から話を聞き、「平和」のために何ができるかを考えました。

同じく3月、東日本大震災の被災地の人たちから学ぶ「虹っ子平和スタディツアーin福島」を開催。中学・高校生17人が参加し、福島の現状や情報の大切さ、福島の食の安全性などを学びました。旅のようすは、ワカモノ応援サイト「Konoyubi.」に掲載しています。



福島県で放射線量測定を体験



広島の被爆地域を自転車で巡る高校生

障がいのある方の就労や実習の場を提供しています

障がい者支援団体と協働でコープ大久保の「めーむひろば」の運営を行っています。「めーむひろば」は、宅配カタログ『めーむ』で注文した商品を店舗で受け取れるサービス。社会福祉法人明桜会「サポートセンター曙^{あけぼの}」の利用者による商品の仕分けや受け渡しを始めました。

これからも福祉事業所との連携や障がいのある方の活躍の場づくりをすすめていきます。



商品の受け渡しを行う福祉事業所の利用者

多様な人を認め合う優しい職場づくりをすすめています

コープこうべの事業所では、障がいのある方も働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

特例子会社「阪神友愛食品株式会社」のサポートを受けながら、多様な人を認め合う優しい職場づくりをすすめています。



協同購入センター西宮での倉庫作業▶



阪神友愛食品(株)のホームページ

ウクライナ避難民の生活を応援しています

ウクライナから避難されている方の生活を応援するため「ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)」から拠出しています。行政や地域団体などと連携しコープこうべの活動エリアに避難されている方に呼びかけ。その中で組合員になっていただける方を対象に、コープこうべの店舗で使える電子マネー10万円分を拠出金でチャージした「コピーカード」を、2022年度は56世帯に各1枚お渡ししました。一部の避難民の方は、店舗で就労もされています。



避難民の方の就労に向けた面接を実施(コープ北鈴蘭台)

ターゲット コープの 協同のあ ～やさしさつむいで

誰もが地域で安心してらせる、未来の子どもたちが笑顔であふれる、
そんな「コープのあるまち 協同のある暮らし」の実現に向け歩み出しました。
2030年に、コープこうべが地域になくってはならない存在でいられるよう、
2023年から始まる「中期経営計画」では、
「3つの柱」を大切に課題に取り組んでいきます。

3つの柱 1

お買い物を通じた 暮らしの安心づくり

エリア全域をカバーする週一宅配を軸に、
地域性のある品揃えや活動拠点を有した
店舗やその他のサービスを
組み合わせることでお買物を支援し、
安心してくらすことができる
「まち暮らし」

ト 2030

あるまち ある暮らし

あした
笑顔で未来へ～

3の柱 3

環境や社会の ためになる活動・ 事業モデルの促進

SDGsの考え方を大切に、
これまですすめてきた環境活動や社会貢献を
組合員、地域とともに更に発展させ、
ますます参加の輪が広がる
「まち暮らし」

3の柱 2

いきいきとした 暮らし・地域の つながりづくり

地域課題の解決に向けて、
地域でのつながりや協働がひろがり、
地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、
いきいきと活躍できる
「まち暮らし」

コープこうべ概要

(2023年3月31日現在)

- 名称 生活協同組合コープこうべ
- 設立 1921年(大正10年)
- 所在地 〒658-8555
兵庫県神戸市東灘区住吉本町
1丁目3番19号
- 出資金 368.9億円
- 供給高 2448.2億円
- 組合員数 172万8499人
- 世帯加入率 49.0%
※活動区域の世帯数に占める組合員数の割合
- 活動区域 兵庫県全域・京都府京丹後市、
大阪府北部(豊中市、箕面市、
池田市、吹田市、茨木市、高槻市、
摂津市、能勢町、豊能町、島本町、
大阪市淀川3区)
- 主な事業 食を中心に安心して利用できる
宅配や店舗事業を運営。組合員
や地域の皆さまと連携し、より良
い社会の実現に取り組む。
- 職員数 9456人
- 事業所 住吉事務所/1カ所
地区本部/8カ所
店舗/138店舗
協同購入センター/22事業所
六甲アイランド食品工場/1カ所

アンケートのお願い

今後の報告書づくりの参考に
させていただきますので、
皆さまのご意見・ご要望を
お寄せください。右上のQRバーコード®を
読み取って、入力をお願いします。



◀ ホームページ
<https://www.kobe.coop.or.jp>



Instagram ▶
<https://www.instagram.com/coopkobekoho/>



コープこうべグループの紹介

(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 折込チラシセット業務
- 物流センター構内作業
- 福祉用具レンタル業務など
- 地域担当業務

(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当の製造販売
- まいくる・中学校給食などの給食事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工、盛り付け、包装など

(株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行



阪神友愛食品(株)

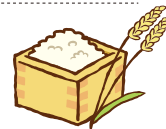
- リサイクルに関する業務
- 知的障がい者の職業訓練
- 食品の包装業務

コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・施工・アフター管理など

(株)コープライスセンター

- 精米業など



(株)コープ環境サービス

- ビル保守管理・警備・清掃
- 店舗検収業務
- ホームサービス事業
- 再生可能エネルギーを利用した発電事業など

(株)コープベーカリー

- インストアベーカリー「小麦の森」の運営事業
- 「コープこうべ六甲アイランド食品工場」の製造部門、管理部門受託事業



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 施設内の清掃業務



(有)みずほ協同農園

- 農産物生産販売事業
- 農業体験学習事業
- 貸農園事業



コープこうべ コミュニケーションレポート2023

編集・発行/生活協同組合コープこうべ